

ストレス耐性の低下

一般症状スケール

0 なし	1 存在が疑われる	2 軽度	3 中等度	4 やや重度	5 重度であるが精神病性ではない	6 重度かつ精神病性
	普段と変わらない日でも疲労やストレスを感じる。	日々のストレスで予想以上の不安症状が生じる。	普段と変わらない日での予想外の出来事で消耗してしまう。	日々の経験に「挑むような」気持ちが徐々に必要となる。	日中に生じるストレスのかかる状況を回避したり、あるいはそれにのみこまれたりする。	日々のストレスに対して、混乱、パニック、無関心、ひきこもりが出現する。

評価の根拠：

症状の発現（レベル3以上の症状に対して）

最近の症状がはじめて生じた日時を記録する：

- 生涯にわたって、あるいは物心ついて以来
- 明らかでない
- 出現の日時 _____（年） _____（月）

失調型パーソナリティ障害の診断基準

遺伝的なリスクおよび機能低下を示すリスクシンドローム——遺伝的なリスクには、DSM-IV の失調型パーソナリティ障害の診断基準に該当するか、または一親等家族に精神病性障害の家族歴を持つことが必要である。

DSM-IV の失調型パーソナリティ障害：

親密な関係では急に気楽でいられなくなる、そうした関係を形成する能力が足りないこと、および認知的または知覚的歪曲と行動の奇妙さのあることによって特徴づけられる、社会的・対人関係の欠陥の広範な様式。発症は少なくとも思春期か成人早期に認めうる。18歳以下の場合には、少なくともその特徴が一年以上にわたって存在することが必要となる。

現在の失調型パーソナリティ障害は、以下のうち5つ（またはそれ以上）によって示される：

DSM-IV—失調型パーソナリティ障害の診断基準—面接での反応に基づいて評価を行う	はい	いいえ
a. 関係念慮（関係妄想は含まない）		
b. 行動に影響し、下位文化的規範に合わない奇異な信念、または魔術的思考（例：迷信深いこと、千里眼、テレパシー、または第6感を感じること；小児および青年では、奇異な空想または思い込み）		
c. 普通でない知覚体験、身体的錯覚も含む		
d. 奇異な考え方と話し方（例：あいまい、まわりくどい、抽象的、細部にこだわりすぎ、紋切り型）		
e. 疑い深さ、または妄想様の思考		
f. 不適切な、または限定された感情		
g. 奇異な、奇妙な、または特異な行動または外見		
h. 一親等家族以外には、親しい友人または信頼できる人がいない		
i. 過剰な社会不安があり、それは慣れによって軽減せず、また自己卑下的な判断よりも妄想的恐怖を伴う		
DSM-IV における失調型パーソナリティ障害の診断基準を満たしますか？		

SIPSの要約

陽性症状スケール

0	1	2	3	4	5	6
認められない	存在が疑われる	軽度	中等度	やや重度	重度だが精神病的ではない	重度かつ精神病的である

陽性症状

P1. 不自然な内容の思考／妄想 (p.10)	0	1	2	3	4	5	6
P2. 猜疑心／被害念慮 (p.12)	0	1	2	3	4	5	6
P3. 誇大観念 (p.14)	0	1	2	3	4	5	6
P4. 知覚の異常／幻覚 (p.17)	0	1	2	3	4	5	6
P5. まとまりのないコミュニケーション (p.19)	0	1	2	3	4	5	6

陰性／解体／一般症状スケール

0	1	2	3	4	5	6
認められない	存在が疑われる	軽度	中等度	やや重度	重度	ごく重度

陰性症状

N1. 社会的な関心の喪失 (p.20)	0	1	2	3	4	5	6
N2. 意欲減退 (p.21)	0	1	2	3	4	5	6
N3. 感情表出 (p.22)	0	1	2	3	4	5	6
N4. 情動や自己の認識 (p.23)	0	1	2	3	4	5	6
N5. 思考の貧困化 (p.25)	0	1	2	3	4	5	6
N6. 社会機能 (p.26)	0	1	2	3	4	5	6

解体症状

D1. 奇異な行動と外見 (p.27)	0	1	2	3	4	5	6
D2. 奇異な思考 (p.28)	0	1	2	3	4	5	6
D3. 注意・集中の困難 (p.29)	0	1	2	3	4	5	6
D4. 衛生観念の低下 (p.30)	0	1	2	3	4	5	6

一般症状

G1. 睡眠困難 (p.31)	0	1	2	3	4	5	6
G2. 気分不快 (p.32)	0	1	2	3	4	5	6
G3. 運動障害 (p.33)	0	1	2	3	4	5	6
G4. ストレス耐性の低下 (p.34)	0	1	2	3	4	5	6

GAF

失調型パーソナリティ障害 (p.35)

精神病性障害の家族歴 (p.6)

現在 _____ 最近1年での最高レベル _____

該当する

該当する

該当しない

該当しない

SIPS サイコーシス・リスクシンドローム基準の要約

I. 現在の精神病状態の除外 (POPS)

精神病症状

- A. SOPS P1 から P5 スケールのうちどれか一つでも 6 点がありましたか。 はい いいえ
- B. 上記 A が該当した場合、その症状は深刻あるいは危険なものですか。 はい いいえ
- C. 上記 A が該当した場合、その症状は 1 ヶ月に渡って少なくとも平均週 4 日の割合で 1 日に一時間以上認めますか。 はい いいえ

上記 A,B,C すべてに該当すれば、現在の精神病状態に相当する。

最初に基準に到達した日時 (年月日) を記録 : _____

II. サイコーシス・リスクシンドロームの検討 (COPS.3.0)

A. 短期間の間歇的な精神病状態

- 1. SOPS P1 から P5 スケールのうちどれか一つでも 6 点がありましたか。 はい いいえ
- 2. 上記 1 が該当した場合、その症状は過去 3 ヶ月間に精神病的なレベルに達するものでしたか。 はい いいえ
- 3. 上記 1 および 2 が該当した場合、その症状は現在 1 ヶ月に一回の割合で少なくとも数分の割合で存在するものですか。 はい いいえ

上記 1, 2, 3 すべて該当した場合、短期間の間歇的な精神病状態に相当する。

最初に基準を満たした日時 (年月日) を記録 : _____

B. 微弱な陽性症状

- 1. SOPS P1 から P5 スケールのうちどれか一つでも 3-5 点がありましたか。 はい いいえ
- 2. 上記 1 が該当した場合、それらの症状のうち 1 つでも 1 年以内に始まったかあるいは 1 年前に比べて 1 点以上上昇したのがありますか。 はい いいえ
- 3. 上記 1 および 2 が該当した場合、その症状は過去 1 ヶ月間で少なくとも平均週一回の割合で存在するものですか。 はい いいえ

上記 1, 2, 3 すべて該当した場合、微弱な陽性症状の基準を満たす。

最初に基準を満たした日時 (年月日) を記録 : _____

C. 遺伝的なリスクおよび機能の低下

- 1. 失調型パーソナリティ障害の診断基準を満たしますか。 はい いいえ
- 2. 精神病性障害を持つ一親等家族が存在しますか。 はい いいえ
- 3. 最近 1 ヶ月間の GAF の値が 1 年前に比べ少なくとも 30%以上低下していますか。 はい いいえ

上記 1 および 3、または 2 および 3、あるいは 1~3 までの全てを満たす場合に、遺伝的なリスクおよび機能の低下が存在すると診断される。

最初に基準を満たした日時 (年月日) を記録 : _____

以下該当するものに○をつけてください。

精神病状態 _____

短期間の間歇的な精神病状態 _____

微弱な陽性症状 _____

遺伝的なリスクと機能の低下 _____

他の精神疾患 DSM における I 軸疾患 _____ II 軸疾患 _____

参考文献

SIPS/SOPS ver5.0 日本語訳は下記を参照してください。

サイコーシス・リスクシンドローム

Thomas H. McGlashan, Barbara C. Walsh, Scott W. Woods 著

水野雅文監訳 小林啓之訳

医学書院 2011年6月刊

平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））
精神疾患に対する早期介入とその普及啓発に関する研究

ARMS 症例集

発行日 平成 25 年 3 月 10 日
発行者 研究代表者 水 野 雅 文
発行所 東邦大学 医学部 精神神経医学講座
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
TEL 03-3762-4151 FAX 03-5471-5774
